

エコニュース さって



第 8 8 号
令和 5 年 7 月 27 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

令和 5 年度第 1 回市民環境講座「中川探検ウォーク」に参加して

報告：澤村



食べられる野草発見！

令和 5 年 4 月 21 日（金）、第 1 回市民環境講座「中川探検ウォーク」が開催されました。今年度は従来の「木の種類、特徴、中川の発祥は！」を中心としたテーマから全く違った「食べられる野草を探そう！」のテーマで実施しました。参加者は市民から 4 名、市役所・秘書課広報担当 2 名、環境課 1 名、「NPO 法人とよあしはら」の山本講師、スタッフ 6 名、埼東よみうり記者 1 名の計 15 名でした。冒頭、幸手市環境課長からのご挨拶、久保田会長の挨拶、山本講師をはじめとする参加者の紹介、参考にカラー印刷で「23 種類の食べられる野草と 2 種の毒草。そして野草の名前を探すときに、便利なスマホアプリから知る」、を資料として全員に配布しました。

公民館から中川河川敷を宇和田公園までのウォークルートで、9 時 30 分出発し、4 月 13 日（木）の下見に沿って行動しました。下見で採取して草のお浸しや胡麻和え、天ぷらにして試食した体験を説明しながら歩きました。タデ科のギンギン（子供の頃、咬んで酸っぱいのでショッパンと呼んでました）、オオバコ、カンゾウ、タンポポなどがあり、写真資料と合わせながら確認していき

ました。オオバコは胡麻和えで美味しい、カラスノエンドウは天ぷらにすると良いがスズメノエンドウは美味しくない。一般的に若い葉がよく、成長した葉は硬く、筋があり食べにくいとも補足しました。ノビルは戦後の食糧難の頃よく採ってきて、球根は味噌を付けて食べたことを話すと参加者の皆さんがうなずいていました。樹木が専門の山本講師から、土手に生えている（タネを鳥が運んだか？）ブナ科のマテバシイの実（ドングリ）は「昭和 30 年代、実を煎って映画館で売っていました。香ばしくて美味しいですよ。」と思い出を語ってくれました。

また、参加者からチガヤ（ツバナ）（イネ科）の若い花は、子供の頃、咬むとガム状になり、ほんのり甘くて懐かしい。」とのことでした。

宇和田公園に着くと、久保田会長から公園の歴史として、市の教育委員会が設置した看板



楽しい、皆さんの意見交換のとき

を見ながら、106 年前に有名な公園設計者で「日本の公園の父」と言われている本多静六林学博士が自分の母親の実家が上吉羽轡瀬の金子家であることから設計されたことを解説しました。

公園の休憩所に着いて、各自思い思い持参した弁当を色々の体験談を和やかに語らいながら食べました。

公園設置 100 周年記念を前に、山本講師の指導下で当会が植えた「ヒマラヤ桜」（元来、秋に咲く）が今年こそは咲いてくれればと

期待しながら観ました。

帰りは、対岸を歩き、河川敷にいるアオサギ、河で餌を探しているカワウを眺め、土手では羽色の違ういろいろなヤマトシジミが観られました。更に、サプライズに由緒ありそうな庚申（こうしん）塔や石仏を案内しました。東公民館に戻って、参加者の感想を伺い、多くが「今回の自然観察で何気なく見ていた植物に食べられるものが沢山あることを知りました。」ということでした。



野草を手にとって説明する久保田会長

最後に、久保田会長から、「今回見つかった野草は、昔農家の人達が食用や薬に使われていたものです。そういった文化や知恵を、イベントを通して知って貰えたら」と語り締めました。

筆者が後から感じたことは、食べられる野草と言えば、正月にお粥にして食べる春の七草、改めて食べたことない秋の七草、子供の頃よく摘んで草餅（今は、年中売っている）にして食べたヨモギ、ノビルなど。

また、毎年、幸手小出前講座でも取り上げている野草

（オオバコ、タンポポ、ギシギシ、ハルジオン、ヒメジオン、ドクダミ等）は、味はともかく

煎じて飲んだり、絞ったりするして薬草になる、ことを思い出し、また某薬草園の見学会で専門家の話で植物は元来、動物に食べられるの防ぐために多かれ少なかれ毒を持っている（猛毒～毒性は弱いが所謂、あくである。）と聞いたことを思い出しました。「猛毒」のトリカブトは「附子（ブシ）」と言われて微量では漢方薬の要である、とも言われていました。

また、「あく」は「シュウ酸」等を多く含み多量に摂ると血液中の「カルシウム」と結合して「シュウ酸カルシウム」となり、尿路結石症や腎臓結石症の原因となります。次回も、「食べられる野草を探そう！」の同じテーマで開催ならば、時間の延長又は時間配分を考えて、食べられる草を摘んできて、お浸しや胡麻和え、天ぷら？にして食べるのも良いかなと思いました。

なお、まだ 4 月下旬にも関わらず、大変暑い日で参加者は皆汗をかいて上着を脱いでのウォークでした。これも地球温暖化の影響であると思われました。（写真提供：幸手市秘書課）

南公民館「緑のカーテンづくり」の実施

報告：坂本

令和 5 年 5 月 10 日（水）、例年行っている緑のカーテンづくりを今年度も実施した。ゴーヤを植える場所では、2 週間前から草取り、耕す作業、肥料をほどこしています。この貴重な作業を環境ネットの福田さんにやっていただいた。



ゴーヤを植え、ネット張り終了、
夏には、緑のカーテンになります

ゴーヤの苗は、当日買う予定であったが、昨年栽培したゴーヤの種が、その場でこぼれ落ち、10 本ほど発芽していたので、これを使った。また、環境ネットの唐澤さんが、自宅から 15 本ほど苗を持ってきてくれたので、これも使用した。今後、雨のときは必要ないが、晴れた日は、2 日に 1 度は水やりが欠かせない作業です。

ゴーヤは、ウリ科ツルレイシ属という分類であるそうです。原産地は東インドを中心とした熱帯アジアといわれ、暑さに強く、寒さに弱い性質を持っています。一つの株から雌花、雄花が咲き、雌花は、花の付け根が膨らんでいるので見分けやすいといえます。雌花が受粉すると、この膨らんだ部分が実になるという。実際に花が咲いたら、雌花と雄花を確かめてみたいと思っています。

水やりに励み、暑さと共に、ゴーヤが成長し、緑のカーテンができる過程を見守り、ゴーヤの収穫を楽しみにしています。

エコライフ DAY2023 宣言式の開催

報告 : 坂本

令和 5 年 5 月 12 日（金）、幸手市役所応接室にて、「エコライフ DAY 宣言式」が行われました。参集したのは木村純夫幸手市長、さって市民環境ネットのメンバーと環境課の職員です。

エコライフ DAY は、埼玉県が主体となって進め、県民みんなで環境のことを考えて行動する日のことです。県のホームページにあるエコライフ DAY チェックシートを使い、省エネ、省資源の生活を体験する 1 日です。実施の期間は、令和 5 年 7 月 1 日から 9 月 30 日までです。



幸手市長とさって市民環境ネットのメンバー

対象者は、次のとおりです。
①市内小中高生、その家族及び教職員。②事業所、各種団体の職員。③一般市民。④市役所職員。

参加する方法は、次の URL を入力するか、QR コードを読み込み、指示されるとおりお進みください。

木村市長からは、「今年度もこの事業を通して、少しでも多くの方々に地球温暖化に対する危機感を持っていただき、二酸化炭素削減のために取り組んでいただけるよう切に願います。

今年度目標は、参加者 1600 人（昨年度 1049 人）、二酸化炭素削減量 1392kg（昨年度 887kg）としました。幸手市一丸となってエコライフ DAY を推進してまいりましょう。」というコメントをいただきました。（写真提供：幸手市秘書課）

エコライフ DAY 参加



[https:// ecolife-saitama.jp](https://ecolife-saitama.jp)

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやって
いただく方を募集しております。是非、貴方も
参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★問い合わせ先；

久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園 20 期）